

「名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業」実践紹介 Part 1

平成20年度から実施している「名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業」（以下、「シルバーパワー事業」）は、団塊の世代をはじめとするシルバー世代の方が、地域でボランティア活動等に参加することで、その地域の課題（個人のちょっとした困りごと等）を解決することを目指しています。市内4区8小学校区における実践を紹介し（ほか4学区は次号紹介いたします）。

東区 山吹学区 「福祉施設の支援から地域の支えあい活動へ」 ～山吹ワーキングセンターとの連携を通じて～

山吹学区には、「山吹ワーキングセンター」という知的障がい者授産施設があります。この施設の運営や事業には多くの地域住民が関わっています。そのため山吹学区は施設や障がい者に対する理解が深い地域です。

年に1回の「ふれあい山吹ワーキング」は、施設のお祭りに、地域住民が模擬店を出すなど積極的に地域が施設を盛り立てていこうとする姿勢がみられます。

この施設では、平成12年度から、地域のボランティアの協力のもと配食サービスを実施しています。この配食サービスは、ボランティアが高齢者や障がい者のご自宅に、お弁当をお届けするとともに、安否確認やひとり暮らしの孤独感の解消を目的に行われています。

シルバーパワー事業においても、地域住民が積極的に配食ボランティアとして参加しています。配食ボランティアは、1日1時間程度の活動で、自分の余暇に合わせて気軽に行えるボランティア活動として、地域に認知されつつあります。配食ボランティアは、お弁当を3～5個パックに入れ、自転車で高齢者等のお宅を訪問します。呼び鈴を鳴らすと、家から出てきて受け取ってくれる方や、ほとんど寝たきりのためベッドのそばまで行って来訪を告げて起きあがっていただく方がいます。利用者は、ボランティアの訪問をとても楽しみに待っています。

ボランティアは、お弁当をお届けする短い時間の間にも、体調の異変やちょっとした困りごとを聞き取り、その内容を、施設職員に報告したり、民生委員やボランティアの仲間と相談したりして解決を目指しています。また、必要に応じて、区役所や社会福祉協議会、地域包括支援センターにつなぐこともしています。

現段階では、ちょっとした困りごとへの対応を住民やボランティアで解決していくまでには至っていませんが、地域住民がボランティアとして、地元の高齢者や障がい者宅を訪問することで、地域の情報を利用者へ伝えたり、細かな個人の困りごとを把握する方法のひとつとなっています。今後は、把握された困りごとをいかに、住民の方で解決に結びつけるかが課題となっています。



配食サービスの様子

南区 道徳学区 「町内会圏域での地域支えあい活動の展開」 ～町内会での支えあいシステムを基盤にした個別支援～

道徳学区は、数年前から一つの町内において、支えあいによるボランティア活動がありました。しかし、その活動は学区全体に認知されておらず、今回のシルバーパワー事業を通じて町内会長に紹介したところ、「それが本来の地域の姿だ」と全町内が団結し、支えあいシステムを全ての町内に構築することになりました。

道徳学区は、まず、システムを構築し、いつでも組織的に困りごとを解決できるようにしました。システムの中心となるボランティアは、各町内6名以上が登録しています。このボランティアは町内ごとで選ばれ、中には、庭木の剪定など特技のある人もいます。なるべく多くの人材でやっというところと20名以上のボランティアが登録されている町内もあります。このように全町内が支えあいシステムを構築できたのは、地域福祉推進協議会会長の統率力が強いこと、困りごとはまずは町で解決したいと考える町内会長が多いことだと思えます。シルバーパワー事業の説明もほとんどが、全町内会長が集まる学区連絡協議会で行われ、事業の浸透も比較的早く進みました。

困りごと町内単位で収集し、町内ボランティアにより解決しています。活動は町内によって様々で、認知症高齢者の傾聴、入院中の方の犬の散歩、高齢者宅の廃品回収、家具の修理、蛍光灯の取替えなどを行っています。今年度からは、困りごとの収集と安否確認のため、個別訪問を始めたり、緊急時などいざという時にボランティア活動ができるように、自分の顔を売るための声かけパトロールを始めた町内もあります。

支えあい活動は町内で収集された地域福祉活動推進員（以下「推進員」）に集約されます。町内で解決できない相談については、推進員が情報提供し、推進員でも解決できない相談については、社会福祉協議会を通じて関係機関につないでいます。

現在は、31町内中15町内程が活動しており、活動に結びついていない町内では困りごとの収集方法などを検討中です。また、50～60歳代の方が活動しやすい清掃活動などをきっかけとして、支えあいによるボランティアを増やしていけたらと考えています。



困りごと相談の様子

港区 大手学区 「学区ボランティアグループの立ち上げ」 ～銀杏の会を創立して～

大手学区は、古くからこの地域に住んでいる住民と、マンション建設が進み、新しく転入してきた住民がいる学区です。学区は五協とよばれる区政協力委員会や民生委員児童委員協議会などの組織を中心にして、横の連携もよくとれています。

銀杏の会は、地域福祉活動推進員（以下「推進員」）を中心に創立されました。当初は区内の5地区の中から推進員により選ばれた男性のみ6名でしたが、現在は女性も加わり7名のメンバーとなっています。この会は、この事業の個別支援事業について考える場であり、メンバーの得意なこと、できることをそれぞれで進めていこうという目的で創立されました。名称は、シルバーパワー事業の「シルバー」の銀と「パワー（力）」が出る銀杏から付けられました。

月に1度集まることを決めましたが、創立してからしばらくは、ボランティアポイント制度など複雑なこの事業をメンバーが理解するのに時間がかかりました。また、学区がしっかり組織運営されているため、この会は学区でどのような位置づけにあるのかが多く議論されました。

その中で、シルバーパワー事業の本来の目的である学区内の困りごとを新たな担い手を探しながら解決していこうという話し合いが徐々に始まりました。現在は支援が必要な高齢者の方などからニーズを拾うこと、新たな担い手を集めるために、そば打ちのイベントを行うことを決め、実行しています。

それぞれのメンバーの思いの実現に向けて、まず推進員が必要だと感じた学区内でのサロン活動から進めました。地域の講師ボランティアを中心にコミュニティセンターでの写経や編み物などのサロンの立ち上げ、一方で、自宅を開放してサロンを開きたいという住民の方を見つけ、同じ町内の高齢者を対象にした「ひだまりの家」というサロンの立ち上げにも協力しました。

事業の立ち上げから1年、徐々にですが、地域活動の広がりを見せています。



「銀杏の会」メンバー

天白区 高坂学区 「地域活動を行う関係団体の意思統一と住民への啓発」 ～地域活動への意欲の高まりと住民への広がりを目指した取り組み～

高坂学区はシルバーパワーの実施にあたり、関係団体が一つの事業を協力して行うことを意識しました。シルバーパワー活用連絡会議には、実施主体である地域福祉推進協議会の構成員とともに学区のボランティアも加わりました。

シルバーパワー事業のボランティアポイント対象事業の認定プロセスが、学区事業の再確認につながりました。学区の中で、どのような事業が行われ、どこが実施主体となっているのか、また、ボランティアポイントの付与にあたり活動実績の集計のため、各事業のまとめ役「事業リーダー」を決定しました。リーダーは、事業に関わるボランティアにシルバーパワー事業への参加を呼びかけ、ボランティアカードの発行につなげました。そのリーダーは呼びかけするためにシルバーパワー事業を理解する必要があり、必要に応じて社協コミュニティワーカー（社協職員）から説明を受け理解に努めました。こうして事業リーダーは事業に関わるボランティアの把握とともに、まだ地域活動へ参加していない方への声かけを始めました。この動きの中から「私たちも地域活動に参加したい」という声があがり、新たに街路清掃ボランティアグループが立ち上がり、シルバーパワー事業の中で共に活動をしていくという意識から、既に街路清掃を行っている団体と相互に協力し、活動を行っています。

このように各事業リーダーを中心に活動を行う中で、シルバーパワー活用連絡会議の会長から「学区で一つの事業を各団体が一つになり協力して推進する意識統一のために、『SilverPower』の文字入りの統一ベストを作成したい」という声があがり、活用連絡会議・協働ネットワーク研修で構成員に説明を行い製作しました。また、ベストの配布は、シルバーパワー事業の専用ページを設けるなど、学区としての意識も向上してきました。

2年目に入るにあたり、シルバーパワー活用連絡会議を各事業の情報交換による地域活動の協働推進や福祉課題の検討の場とするために、各事業リーダーを構成員として新たに組織しました。今後は、より一層学区一体での事業推進とリーダーによる地域活動の新たな担い手の発掘を行い、地域の活性化につなげていきます。



活用連絡会議メンバー

本事業のお問い合わせ先 **名古屋市社会福祉協議会 地域福祉推進部**
TEL (052) 911-3193 FAX (052) 917-0702 http://www.nagoya-shakyo.jp/s_p.htm